



前の号に引き続き、5・6年生の感想を紹介します。

【5年生】

- ・うれしい言葉をかいてくれて、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
- ・全校生徒のいいところを見つけたいです。
- ・もっと頑張りたいです。次は書かれていないことをやりたいです。友達はみんなのことをよく見ているんだなあと思いました。
- ・これからも自分のいいところを大事にしていきたいです。

【6年生】

- ・うれしくて涙が出そうでした。自分に自信をもてました。
- ・みんながいいところを持っているということがいいなと思いました。みんな仲がいいです。
- ・自分のいいところをみんなが気づいてくれていて、もっといいところを増やしたいと思いました。
- ・自分がしていることをちゃんと見てくれていたことに気づけた。うれしい。
- ・みんなのいいところも、もっと見つけていきたいです。
- ・自分ではじぶんのいいところを見つけられないけど、みんなが書いてくれてよかったです。
- ・うれしくて、感動しました。友達からの評価を知ってうれしかったです。この振り返りをして、これから人からもっとみつめられるようになっていきたいと思いました。
- ・いいところを伝えることばで、学校生活が楽しくなって、元気が出てきました。
- ・いいところを書いてもらって、うれしかった。これからも続けたいです。
- ・みんなから違うことを言ってもらって、自分にもこんないっぱいいいところがあるんだと思いました。友達のいいところもたくさん探していきたいです。
- ・自信がなかったことをほめてもらえて、うれしい気持ちになりました。
- ・やさしいとか、元気とか書いてあってうれしかったです。自分も友達のことをたくさん書けて良かったです。
- ・私ってこんな人だったんだと思いました。みんなに頼られる人になりたいです。
- ・うれしかったので、これからも友達のいいところを見つけたいです。
- ・これからも他人にやさしくしていきたいです。
- ・自分では不安だったところを、いいところとして書いてくれていたから、前向きに考えられるようになりました。
- ・次は、やさしいと言ってもらえるようにがんばります。
- ・もっとグループの友達となかよくしたいです。
- ・友達の言葉を生かして、いいところが続くようにしたいです。
- ・自分のいいところと友達のいいところを考えているうちに、いろんなことを考えられて、不思議な気持ちになりました。
- ・友達にほめてもらえると元気が出て、うれしい気持ちになりました。

- ・自分や周りの人たちの大切さや一緒に過ごす楽しさを改めて感じました。
- ・友達のいいところを考えながらもっといろいろな人と話したり仲良くしたりしていきたいなと思った。
- ・みんなから信用されていてうれしかった。
- ・うれしかった。1年間がもっと楽しくなるような気がした。友達もこんな気持ちなのかなと考えると、これからもたくさんいいところを見つけてみたいと思った。
- ・書いてくれたことをこれから意識して過ごしていきたい。もっと良いところが増えるよう、自分のできることなどを見つけていきたい。
- ・みんな、人それぞれにいいところがあって、みんなのいいところを大切にしていきたいです。
- ・人からどう思われているかわからないから、相手がおもっていることがわかってよかった。
- ・人それぞれいいところがあって、ちがう特徴をもっていて、みんなそれぞれが違っていいと思った。
- ・今度から人とかかわり方を変えて、その人のいいところをさがそうとおもいました。
- ・ちゃんと見てくれたんだと思った。ゆかいな気持ちになりました。
- ・自分のいいところをたくさん話して、見つけてもらったので、これからみんなと仲良くして、友達のいいところを見つけ、自分のよいところを見つけてもらいたい。
- ・これからも頑張ろうというきもちになった。
- ・みんながいいところさがしの活動をしているとき、みんながふざけずに、まじめに取り組んでいて、これからもがんばろうという雰囲気になりました。

一学期ももう少しで終わり、通知表を持ち帰ってくるでしょう。もちろん、学校では、学習内容が定着していくよう、励ましながら根気強く取り組ませていますし、学習ができるようになることは、子どもたちにとっても喜びです。しかし、学校の成績以外の「大事なもの」を教えることも大切であり、そんな「大事なもの」を伝えられる家庭で育った子どもは、自分自身の価値を知り、自尊心をもつこととなります。自尊心とは、誰からも侵されてはならない個人の人格的尊厳があるという、誇りの感情といわれます。自尊心と優越感とは違います。優越感とはときに相手を見下す感情となります。本当の自尊心は、相手の自尊心をも認めることにつながります。自分に誇りをもてる子どもは、友達の気持ちにも共感できますし、いい友達がたくさんできます。

子どもたちの感想には、「自分にはいいところがないと思っていた」という言葉がたくさん出てきました。私たち大人は、「あなたのいいところは、こんなところだよ」と伝えられていないのかもしれないと省みしました。伝えているつもりでいて、子どもたちの心にまで届けられていないのかもしれない。

高学年の感想には、「周りの人は自分をこう見ていたんだ」という言葉が出てきます。思春期に近づくと、社会(周りの人々)のなかで自分の存在の意味を探し始めます。自分は、こんな個性、能力、適性があるらしいと自覚することは将来の進路にもつながります。

思春期に、好意的な反応や評価を得られないと「自己像」が形成されず、強い不安を感じたり、情緒が不安定になったりします。「自分のいいところを知って、元気が出ました」という感想もありました。人からの評価を受けることで、心が安定したのだと考えられます。

『いいところみつけ』を「先生としたい。お母さんとしたい。」という言葉もありました。子どもたちにとって、先生やお母さん、お父さんは、評価をしてほしい人なのです。

もうしばらくすると夏休みです。日頃の学校生活とは違う、様々な体験のなかで、子どもたちのいいところを見つけ、伝えていきましょう。学校では来週からの面談で、子どもたちのいいところをしっかりと伝えたいと思います。